

414
A3171
2

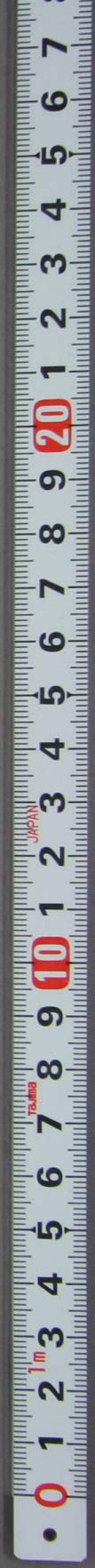
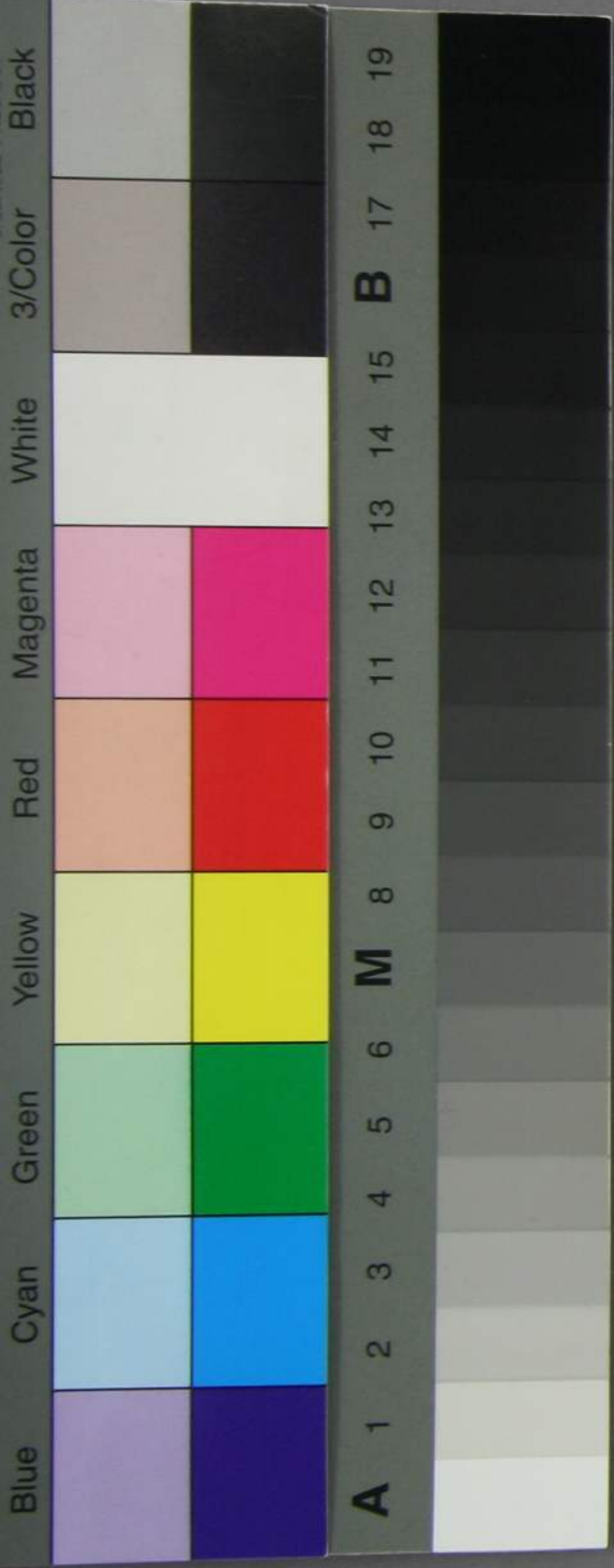
千八百七十七年六月三十日刊行東
東京タイムス新聞抄譯

保護税ノ真理

第四篇

ハスキソシ氏ノ保護税法ヲ變説シテ自由貿易
ヲ主唱セシハ英國ニテ保護税法ノ行レテ外國
ヨリノ錢其他ノ諸物品ニ輸入税ヲ増加セシキ
ト相距ル遠カラステ現ニ全氏ノ變説セシ日
期ヨリ僅カ六年前ニハ英國ニテ盛ニ保護税法
行レシ中ナリ而シテ其後四年ヲ経テ千八百

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈



三十年ノ佛國ノ革命トナリタリ然レバ此キハ
 今氏ノ愛説セシ日期ヨリ已ニ四年ノ星霜ヲ経
 過シタレバ事物上ニ於テ稍其愛説セシ所以ノ
 結果ヲ現出シタリト認メテ可ナルベシ依テ我
 輩ハ此年期年ヲ八百三十一ヲ指スヲ取リテ佛國ノ保護税法
 ト英國ノ自由貿易トノ活用如何ヲ比較スルノ
 點トナシ以テ其結果スル處ノモノヲ左ニ詳述
 スベシ

該年間佛國ノ國産輸出高全數志億萬弗ニ位ス
 之レヲ全國ノ人口志人毎ニ配付スレバ志人ニ

付キ三弗有奇ノ割合タリ而シテ其後三十年ヲ

経ゴベテシツリテハ結盟ノ頃ニ於テハ全國ノ

輸出ハ外國ヨリ、輸入ヲ禁止スルカロヒチゾテハ外國ヨリ、輸入ヲ禁止スルテハ

全今モナリ此法ニ二種アリ一ハ直接ニ外輸ヲ禁止スル一ハ非常ニ税額ヲ増シテ間接ニ之レヲ禁ステハ

億萬弗ニ上登シ即チ志人ニ付キ拾志弗ノ割合

ニ及ベリ又日耳曼戰爭結局ノ後ニ於テハ全國

ノ輸出ハ保護税法・夕メニ巨額ノ増加ヲナセ

リ即チ左ニ示セル如シ

千八百七十志年	五七三〇〇〇〇〇〇
千八百七一年	七三六〇〇〇〇〇〇

千八百七十一年

七九〇、〇〇〇、〇〇〇

千八百七十四年

七七四、〇〇〇、〇〇〇

千八百七十五年

八〇〇、〇〇〇、〇〇〇

千八百七十貳年、佛國ノ人口ハアルサス、ロ
 ライシノ二物ノ日耳曼版圖ニ獲セシガエハ全
 數三千六百萬入タリ而シテ全國ノ輸出高ハ八億
 萬弗ニ及ヒタリ左スレハ志人ニ付キ貳拾貳萬
 ノ割合ニシテ之レヲ千八百三十年ノ數位ニ比
 スレハ七倍ノ余ニ達シタリ或ル英國ノ日誌者
 ハ佛國ガ斯ル警リベキ進歩ノ状ヲ當時一般ノ

不景氣ノ際ニ現出セムヲ見テ佛國ハ妖魔ノ生
 活ヲ現ハセルナリト讀者ニ報道シタリヤ乍去
 今記者ハ佛國ガ八十年ノ間今日ノ如キ全國ノ
 外國貿易ヲ擴張セシムル基礎タル内國貿易ノ
 進歩ノ方ニ政略ノ針路ヲ取リタルヨリ斯ル妖
 魔ノ生活ヲ現スニ至リタルヲ報道セザリシ
 蓋シ今記者ハ佛國ガアダムスミスノ嘉訓ヲ奉
 守スル者タルヲ知ラザルエハナラシカ
 千八百三十年ニ於テ英國ノ物産并製造品ノ輸
 出高ハ全數、億九千弗ニシテ全國ノ人口志人

二付八弗、^言合ナリ之レヲ佛國ノ今年ノ輸出
 高ニ較レハ殆ト三倍余ノ數ナリ今又前ノ如ク
 五ヶ年間ノ英國ノ輸出高ヲ揚ケテ左ニ示スベ
 シ
 千八百七十一年 ^弗 一一一五〇〇〇〇〇〇〇
 千八百七十二年 一二八〇〇〇〇〇〇〇〇
 千八百七十三年 一二七五〇〇〇〇〇〇〇
 千八百七十四年 一二〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 千八百七十五年 一一五〇〇〇〇〇〇〇〇
 右ニ示セル終末ノ數位ヲ英國ノ人トニ配算ス

レハ志人ニ付キ三十四弗、割合ニレテ之レヲ
 佛國ノ輸出高ニ對較セハ唯僅ニ五割ノ超過ニ
 過キズ之ニ由テ之ヲ觀レバ佛國ノ外國貿易ハ
 保護稅ノタメニ快速ノ進歩ヲナスアリテ千八
 百三十年ニ於テハ英國ニ比シテ一ト三ノ比例
 ナリシモ千八百七十五年ニ至リテハ二ト三ノ
 比例ニ達セシヲ見ルベシ
 姑ク英佛兩國ノ輸出高ニ於テ眞實ニ斯ル差違
 アルモノトスルモ當時佛國ハライシノ諸州ヲ
 夫ヘルヲアレル 六他ニテ得シ也ノモノヨ

リハ余分ノモノヲ、タリシニ英國ハ印度、澳
地利及ヒ南亞非利加其他ニ於テ全國ノ人口ニ
十億萬ノ數ヲ増加シ加フルニ日本支那其他東
洋諸國ノ億萬ノ人民ヲ脅迫シテ全國ガ從前ニ
占領セシ物産ノ輸出場ヲ擴張セシ事情ニ就キ
テ觀察ヲ下スルハ洋國ガ貿易上ニ斯ノ如キ變
更ノ狀ヲ起シタルハ極メテ異常ナルト云テ
可ナリ。
然リト雖モ我輩ハ兩國ノ輸出高ノ斯ル差違ノ
真然ナラザルヲ左ニ詳明スベシ

試ニ一事ヲ設ケテ之ヲ云ハシニ秘護ヲ賣取ス
ルノ農夫ハ已レノ産出セシ金額ヲ何等ノ目的
ニ限ラズ自ラ之レヲ專用スルヲ得シガ及之レ
テ其隣人タル小賣商人ハ此農夫ト全一ノ數量
ノモノヲ賣取セシモ其賣上高ノ十分一乃至八
分一ヲ得テハ已レノ利益トシテ之レヲ專用ス
ルヲ得ズトセン佛國ト英國トノ地位ハ恰モ此
農夫ト小賣商人トノ狀ニ殊ナラス今其所以ヲ
左ニ論述スベシ
前ニ論及セシ年々、
竹年ニアリテハ他輩トモ

重ニ自國產出ノ物 賣致シテ其國產輸出ニ
供スベキ製造素本^{原料}ノ外國ヨリ輸入セルモノハ
僅ニ輸出高ノ概數ノ八分一二過キマレテ兩國
トモ等ク前ノ農夫ノ地歩ヲ占メタリ尤モ當時
ニ於ケルモ英國ハ綿ヲ外國ニ仰キシ乍去又自
國產出ノ麻或ハ毛ヲ賣却シ且ツ之レ等ヲ遠邦
異域ニ輸送ニ充ツベキ織物ニ製スルノ工人^手自
國ノ土地ニ產出スルモノヲ以テ養ヒタリ然ル
ニ其後ニ至リテハ百事全ク變換ノ姿ヲ現生シ
夫ノ製造素本即チ生糸麻^絲蒙^毛ヨリ^種ニ綿

ノ如キ織物ノ用ニ供スベキモノモ過半ハ外邦
ヨリ輸入シ夫レガタメ外國ノ耕作者ニ其代價
ヲ拂ヘルアリテ併國ノ如リ之レヲ自國ノ人ニ
拂フヲ得ス又此織物ニ從事スルノ工人ノ消費
セル小麦乾酪鶏卵鶏肉其他ノ類モ等ク外國ニ
仰ケルニ至リタリ
是等ノ形況ヲ通觀セハ我輩カ英國產ノ物品或
ハ英國物製造ノ物品トシテ字内各國ニ輸出セ
ル物ノ半ハ其實他國ノ產物ノ再輸出ナリト
云フモ敢テ過言ニ^アザルベシ^而

臣カ自ラ之ヲ製シ
付キ斯ル巨費ヲ省キテ其代金ヲ得ベキ
リシ然ラハ則チ英國ノ眞實ノ國産輸出ハ佛國
ノ輸出ニ超過セリト人ニ對シテ確保シ得ベキ
抑我輩ハ萬其確保シカリキヲ信スルナリ
斯ク兩國ノ政略ノ相殊ナルノ状ト又随テ結果
セシ懸隔ノ状ヲ觀察シ来ル上ハ尚夫等ノ影響
ノ如何ニ兩國人民ノ事物ト或ハ道義トニ及ベ
ルカノ變化ヲ推究スベシ
佛國革命ノ初ニ當リテヤ全國人民ノ狀況ハ我

輩ノ前篇ニ述ベシ如ク殆ト奴隸ノ狀異同ナカ
リシモ今日ニ至リテハ全ク其面目ヲ革ルアリ
テ已ニ英國ノ一學士タルワルトニ氏ノ如キモ
佛國人ノ情況ヲ審究セシニ其地步ハ世界中
良ヲ以テ目スベキ國民ト同等ニ位セルナリ又
佛國ノ繁榮ハ弥連續シテ弥増進スベキ狀勢
ルナリト述ブルニ至リ以テ佛國約愛ノ美ヲ見
ルベシ必竟佛國ノ斯ル進歩ヲナセシハ全クア
タムスミスノ思想ヲ固守シテ固國力内國貿易
ヲ擴張スルノ法ヲ設クルヲ致ス所

同國ハ武断政治ノタメ巨萬ノ人命
ノ國費ヲ費シ三ツヒ外兵ノ進ヲ被リ三ツヒ
外兵ノ軍費ヲ拂ヒシモ之ニ拘ラス此法ヲ實行
セシニ由ルナリ第一世那波烈翁云ク佛國ノ草
命ハ人民ノ空腹ニ由ルナルナリト此ニ由テ之
ヲ觀レバ前キノ四年間佛國政治ノ結構如何ニ
歸着スベキカヲ知ラザルノ際ニ於テ同國人民
ガ極テ静穏ニテアリシハ職トシテソルトシ民
ノ言或ハ其他ノ事情ニ於テ分明ナリシ如キ全
國一般ノ富榮ニ由レルナリト云ハザルベカラ

ス
轉ニテ英國ヲ觀レハ其沿革全ク佛國ト殊ナリ
テ退歩ノ状ヲ示セリ抑モ往時ニアリテハ愛耳
蘭ノ人民モ獨立ノ立法ノ法下ニ浴シテ富榮ノ
生活ヲ嘗ミ蘇格蘭ノ如キモ數百萬ノ借地人ハ
地主ト全等ノ權利ヲ占ムルヲ得保有スルヲ得得テ
リ又英國ニ觀ルモ數百萬ノ人口ハ各其土地ニ
食ニ年々耕作或ハ職工ニ從事スベキ數萬ノ丁
壯ヲ生シテ其國利ヲ經營スルアリテ殆ト世界
無比ノ精良ナル一社會ヲ現出シタリキ至ルニ

近年ニ至リテハ是言ノ状況ハ全ク跡ニ色テリ
トツクレ山民云ク愛耳蘭ニ於テハ人民ハ食糧
ニ迫ルモノ數百萬ヲ以テ數フベシト又蘇格蘭
ニアリテハ人民ハ牧羊飼鹿ノ業ヲ失ヒタリト
且又英國ニ於ケルモノハ一記者ノ云
ヘル如ク唯一弊屋ナラテハ何物ヲモ有セザル
如キ貧困ノ耕作者ノ充ス可トナリタリ而モリ
リウリスリ山民ノ言ニ據レバ此等ノ耕作者ハ
魯鈍無智ニシテ世界中如何ナル野蠻人種ヲ以
テ之ニ比較セシトスルモ其比例ヲ求メカタク

ホドノモノナリシト云フ觀ヨ斯ノ如キモノハ
英國ノ日夜ニ努力セシ貿易トノ争戰即チ彼ノ
ウエルズオオ子トシヨシ學費財ノ大著述家ガ全
胞人ニ對シテ熱心説述セシ内國貿易ノ進歩ヲ
妨ケントテ全國ガ世界各国ニ向テナセシ處
争戰百年間ニ結果セシモノニ又佛國人ハ其國
産ヲ他邦ニ輸出スルノ年ニ七億万ノ巨額ニ及
ビ然レ其賣上代價ハ誰レヲ向ハス一殺二分
派サル、アリテ僅ニ鶏卵ヲ産出スルノ農夫モ
大礦業ニ於テ事スルノ資本者ト同等ニ其ニ待

ベキノ配當ヲ受クレヤリ以テ其社ノ基礎
日一日ヨリモ孫鞏固ニ赴キテ社會ノ器闕ハ孫
確然安置ノ姿ヲ具ヘリ

反之シテ英國ニテハ銀行者並高賈等ハ唯已レ
ノ午ヲ經由シテ各年巨億萬ヲ以テ數フベキ所
有ヲ交通セルアリテ其巨利ヲ皆ナレ等
午ニ網羅シテ彼ノアタムスニハ時代ニイリ
テハ土地ノ所有主トテ尊重スベキ一社會ヲ十
シタル處ノ力役者ニ及スモノ極テ稀サナリ如
此キガユヘニ社會ノ器闕逐日ヲ逐テ顛倒ノ形

ニ赴キテ將來ノ帰着スル處ヲト知レカクキノ

状アリ

列井ムス記者曰ク我輩ガ古ニ説述セシ兩國ノ

現状ヲ較視セルアリテ果シテ貴社ト意見ヲ異

ニセル論者が痴呆或ハ無智ノ愚口ヲ被ラヌ

ニテハ其論理ヲ發言スル能ハサルヤ否ヲ自決

スル所アルベシ

是レヨリ我輩ハ大西洋ノ西部ニ於テノ緊要ノ

事實ヲ辨述シテ貴社ノ觀ヲ博取スベシ

客年間我々米國ニ於テ綿織物ニ供セ

其量數六億磅有奇ニ位ス而シテ其製ルル織物、外國へ輸送フルモノ極メテ僅サナルモ亦外國ヨリ綿ヲ輸メセシテ極テ些サナリシガ工へ貿易ノ權衡ニ於テ更ニ顧慮スベキモノアラズサレバ我が米國四千三百萬ノ人口ノ消費セシ綿ノ量ハ精密ニ六億萬磅ニシテ一人ニ付十四磅即我國ノ老弱男女ヲ尚ハス平均志人ノ費ス處五十碼ニアタルベシ加之ナラス通商上ノソライシス榮枯盛衰極可ノキニ於ケルモ我が國ハ此狀勢ヲ失ハザルガ工へ其年二月ニ消費者

ト製出者ノ各負ノ關係ヲ弥親密ナラシムルト少トセス

同年間英國ガ自國ノ人口三千三百萬ノ人負ト世界最發億萬ノ人負ノ供給ニ充テシガソメ織物ニ供用セシ綿ノ量數ハ僅ニ我國ニ於テ現實ニ消費セシモノ三倍即チ十二億二千四百萬磅ニ過キズ是レ他ナシカコライナラゼシル其他綿産出ノ地方ノ間ノ運搬費ト又之レヲ消費スル處ノ各國へノ運輸費トニテ莫大ノ費用ヲ要スルガ工へ目ヲ消費ノ力ニ限制サル、處アリ

ハナリ

何レノ國ヲ尙ハス其國ノ富足開明ヲ試驗セ
ニハ其國ガ幾何ノ錢ヲ産出スルカ又幾何ノ錢
ヲ消費スルカノ力ヲ多クニ據リテ測量スルヲ
最モ確實トス今試ニ我國ヲ此測度ニ當テ其得
ル可ノモノヲ左ニ記スベシ

千八百四十一年ニ終リタル自由貿易ノ行レシ
時限ニ於テ消費セシ外國並内國産ノ高ハ人口
高人ニ付キ三十五磅ナリシモ保護税法ノキノ
千八百三十五年ニ於テハ四十八磅ニ上進セリ

又自由貿易ノキノ千八百四十二年ニハ三十八磅
ニ低下シタリシモ保護税法ノ千八百四十七年
並八年ニ於テハ九十八磅ニ上進シ又自由貿易
ノ千八百五十八年並六十年ニ於テハ八十磅ニ
低下シタリ然ルニ又方今保護税法ノ下ニ
リテハ遂ニ百五十磅以上ニマテ増進シタリキ
且又現今我國ニ存在セル溶錢炉タルヤ五百五
十萬噸ヲ溶解スルノ力アリテ即チ高人ニ付キ
二百八十磅ノ割合ノ製錢ヲ生スベシ
又礦物油ノ生産ルモ我國ガ世界ノ通商ニ供ス

レモノ殆クは價高加口ニ量ヲ以テ算スベシ
レテ其大半ハセツトスホルクニシテナク
レバラントノ製造所ニ於テ消費サル、イリ
其他ニ赴クモノ甚ク稀レナリ必竟以各所ノ製
造所ノ如キモ彼ノ魯國或ハニエーイニガラレ
トノ本綿貿易ト同一ニ保護稅法ノ夕大ニ結
ミタルモノニテアリキ

記者復宜ク我輩ガ今日収手セモ貴社ノ諸説ニ
注視スル所アルベシ其論中貴社ハ多クナリ
保護稅法ノ設アル諸國ト、英國ノ貿易高ク揚

ケ次ニ於テ英國ノ錢工業ニ付キ非常ノ抵抗ヲ
ナセシ國ハ英國ガ多ク諸物ヲ買入ル、ノ國ニ
テアリシ昔ヲ証述セシナラズヤ是レ蓋シ貴社
ガ痛心ノ一事トシテ説述セシモノニ似タリ
去貴社ガ此語ヲ發スル止ハ已ニ貴社モ彼ノ
ダラスミズノ忠言ヲ確守シテ自國ノ内國貿易
ヲ進捗スルニ意ヲ注ケルノ諸國ハ遂ニ世界ニ
向テ外國貿易ヲ擴張スベキノ地步ニ至シバ
リ証明セシナラズヤ以テ苦シ是等ニ疑ヲ抱リ
兵アラバ須ノ我輩ガ昔ニ揚載セシ西班牙ニ

留ノ貴國ハ... 報告ト又我...
ニ示セル我國ノ以國産輸出ノ計策トニ據リテ
我國ガ自由ノ錢ヲ製出シ又自國ノ錦キヲ製造
スルニヨリテ地球上ノ製造ヲ事トセザル各國
ノ大得意者トナルベキノ理ヲ自解スルアルベ
ク觀ヨ千八百六十年ニ終ル自由貿易施行
ノ十四年間ニ於テハ我が内國産輸出高三十四
億萬弗ナリシニ其後保護税法設置ノ十四年ニ
於テハ六十億萬弗ニ及ヒタリ又前ノ三ヶ年
間ノ自由貿易ノ法限ニハ輸出高總計九億萬弗

萬弗ナリシモ次ノ三ヶ年間ノ保護税法ノ時期
ニハ十九億八千五百萬弗ニ達シタリ此ノ以テ
ニ當リテヤ我人口二十倍ノ増加アリシガ工ハ
此高ハ恐ソ四割ノ増加ニ過キザラシモ隨分ト
モ異常ノ増進ト云ハサルベカラス
斯リ若國ト佛國ノ實事ニ徴シテ貴社ガ陳述セ
ル處ノ英國ノ錢工業ニ非常ノ抵抗ヲナスノ國
ハ取モ直サズ英國ハ其需要スベキ物品ヲ是ニ
供給シ能ハベキノ國タルヲ証明スルニ是リ
ニナラン然レハ貴社ガ言ハルニ依リ

六子一シヨ
大著
確信セシ我輩
如キ者ノ主張スル要ノ方法
ヲ目スルニ瘳呆不公耳ノ惡口ヲ以テシタルニ
十年間ノ陋説ヲ改培スルノ理ヲ發明スルニ至
ルベキナラン歎書シテ以テ貴社ノ明断ニ付ス

ヘンリー・シー、ヒリー

拾四枚

千八百七十七年七月十四日刊行

東京タ井ムス新聞抄譯

保護税ノ真理

第五篇

我輩ハ斯ク我が推攷スベキ論題ノ事物ニ係
ルモノヲ説述シタルハ是レヨリ轉シテ其徳義
上ニ関スルモノニ論及シテ貴社ノ注意ヲ収攬
スベシ

回顧スレバ自由貿易派崛起ノ初ニ當リ已ニ英
國議院ハ密賣者ヲ當年ノ大改革者ト目視ス

ニ如キノ宣告ナセシテ其時ヨリ今日
至ルマテ全議院ハ密賣者ヲ保護スルノ手段ハ
萬ニ一ヲ遺サバリシ彼ノ「ブラー」タル
「アスコ」ヤ加拿多其他ノ土地ノ如キハ英國
ヲシテ和親締盟ノ國ニ向テ其公法ヲ蔑視スル
ノ奸計ヲ施サシムルノ要具ナリキヤ今
我輩ガ主トシテ貴社ノ注意ヲ要スルモノハ歐
羅巴諸國ニアラスシテ亞細亞地方ニアルガエ
ハ歐羅巴ニ係ルハ實事ハ姑リ措テ論セズ專ラ
前ニ云ヘル大改革^者ハ亞細亞地方ニ於テ作行セ

ニ所業ヲ述ベ以テ貴社ニ其可為ノ如何ヲ考判
セシメントス
千八百年代ノ末ヨリ以前ニアリテハ支那政府
ハ鴉片ヲ以テ唯尋常ノ藥品ト見做シタリシカ
鴉片ノ消費ハ益増進シ加フルニ之ヲ用エシモ
ノ不測ノ病ヲ醸スコト甚カラザルヨリニテ或
ル有識者ハ其毒物タルヲ認メ之レヲ支那帝ニ
獻議シ遂ニ千八百年代ノ初ニ於テ鴉片^禁止ノ
令ヲ發シ之レヲ記スモノハ重キ罰金ノ科ニ當
ソベキ旨ヲ布告セリ然レ氏此布告アルニ拘

鴉片ノ密賣ハ 弥蔓シテ千八百貳十四年ニ
至リテハ其輸入高八百萬弗ノ巨額ニ及ヒタリ
又之レヨリ九年ノ後即チ千八百三十三年ニ於
テ英國政府ハ東印度社中ノ免許ヲ再許セシカ
其意專ラ鴉片ノ密賣ニハ少シクモ干渉スベカ
ラズトノコト主トセルニ似タリサレハ今政府
ハ左ニ掲クルフレンドオフインデヤ記者ノ言
如キ密賣ヨリ度出セル不面目ノ責ニ自ラ甘
シテ任スルヲ屑トスルニ疑ナシ
フレンドオフインデヤ記者ノ言ニ云ク凡ソ

賄賂詐偽假誓破約等ノコトハ密賣ト密附ト倒
係ヲ有スルヤリテ其密賣ノ行ハルヨリ是
等ノ惡業ハ一トシテ行ハザル所ナリ往々密
賣者ト土地ノ有司トノ間ニ激烈ノ衝突ヲ生
セシコトアリ又時トシテハ密賣者トマシタリ
シ官^{支那}トノ間ニ於テ雙方内約アルノ偽争ヲ
ナシ熱心密賣ヲ行ノ状ヲ示シテ政府ノ官
吏ヲ詐ルノ手段ニ及ベリ
斯ノ如ク耶蘇奉教ノ英帝并其政府ニアリテ高
貴ノ地位ヲ占メタル有クハ縉士輩ガ密賣ヲ認

可セシヨリ鴉片ノ高崇ハ速ニ増進シテ千八百
三十七年ノ輸出高ハ四萬千工ス上ニ達シ支那
ノ需要ヲ造為セシモノ貳千五百萬弗ニ及ヒタ
リ即ケ拾三ヶ年前ノ輸出ノ三倍ニ至リタルナ
リ支那ノ大臣等ハ是等ノ形況ニ驚愕スルアリ
テ支那帝ニ説テ云ク内國ニ蠶桑ヲ耕作ス
ベキノ許可ヲ下タシ而シテ斯ノ如ク支那ノ貨
幣ノ外國ニ流出スルノ途ヲ扞止スベシト此氏
支那帝ノ答ニ曰ク其議實ニ然リ然レ氏世ト利
ヲ貪リ賄ヲ受ルモノ虧トセス佞令ヒ朕ガ毒藥

ノ輸ヲ禁遏セントスルモ其利益ニ心醉スル
アルモノハ決シテ朕ノ意ヲ達スルコトアルベカ
ラズ又去リテ内地へ毒物ノ耕作ヲ開キ民衆
ヲシテ不良ノコトヲ遂ケシメ歲ハヲ増殖スルハ
朕ノナスニ忍ヒザル所ナリト支那帝ノ此言ノ
如キハ不朽ノ格言ト云ツ可シ
此ニ由テ之レヲ觀レハ英人ガ野蠻ヲ以テ目ス
ルノ支那帝ニ於テハ斯ノ如ク其未開ノ民ヲシ
テ純然タル耶蘇ノ真教ニ改良セントスルノ意
アルモ却テ自ラ文化ヲ誇レル有議ノ英人ニ於

チハ支那或ハ米國ハ海港ニ於テ密賣ヲナス
モノヲ保庇スルニ汲々熱心スルノ状勢アリシ
豈亦錯乱ノ甚キナラスヤ
我輩ハ又之レヨリ後三十五年ノ間ニ起リシ
ル事跡ヲ左ニ掲グベシ

其年間ノ事跡ノ第一ヲ支那政府ガ英商ノ法令
ヲ犯シテ輸入セル鴉片ヲ没収シテ此商業ヲ廢
過セントスルニ努力セシノ一舉トス又第二ヲ
英兵ノ廣東府ノ砲撃トス此戦争ノ夕メニハ支
那政府ハ巨多ノ死者或ハ巨多ノ人命ヲ烏有ニ

歸セシノミナラス又不幸ナル支那人ハ多年此
密賣者ニ脅迫セラレテ其害ヲ被リタル夕メニ
出セルノ姿ニテ或千五百弗ノ償金ヲ出シ又此
密賣者ノ將來ノ潜伏所ニ供スルノ姿ニテ廣東
河口ニアル香港ヲ渡スベキノ條約ヲ取結ムニ
至ラシメラレタリ又第三ヲ千八百五十七年ノ
戦争トス此戦争タルヤ其曲直ヲ判スレバ全ク
支那政府ノ方ニ罪過アラザルモノニシテ英國
ノ新聞ニ於テスラモ此キノ英國ノ非舉ヲ咎メ
シホドナリシモ英人慣習ノ威力ヲ以テ遂ニ支

那政府ノ百方辯論ヲナセルニ拘ラス全政府ヲ
シテ英國ニテモ毒藥ト公視シテ其賣買ヲ禁ミ
又日本ハモ其輸ヲナサ、ルヲヲ結約セシホ
トノモノタル鴉片ヲバ支那ハ八萬萬トナリ輸
送スルノヲヲ認可スベキノ條約ヲ取結バシメ
タリ

右ニ述ブル事跡ノ如キハ支那ニトリ随分不幸
ノ極所ト見做スベキモ猶支那ガ國土ヲ外國人
ニ開キタルヨリシテ英國ノ奸商賈等ノ蚕食
スル所トナリテ為ニ結果セシ弊害ノ状ハ一層

之レヨリ甚シトスガレ、レテリキブロー、
エール、ロツセ、ル氏ニ寄スルノ書ニ云ク英國ノ
商賈等ハ到處支那人ヲ蔑視シ更ニ其意想ノ如
何ヲ顧ミズ其状他ノ諸國ヲ遍歴セシモノガ通
常ナス處ヨリ一層甚キモノアリト又「ロールド、
エル」ジ「民」曾テ語テ曰ク余ハ我國人等ガ東邦
諸國ノ人民ヲ待スルノ状ヲ見ルニ甚ク殘忍ニ
シテ更ニ耶蘇ノ教者ガ世界到處ニ傳播セシト
ノ説ヲ信スベキノヲヲ見ズ且又我國人ハ支那
人トカ或ハ印支人トカ云ハバ加フルニ嫌惡殘

酷後離ノ意ヲ以テモガルハナキナリト
斯クノ如ク英人ノ亡状止マザリシヨリ支那人
ノ之レヲ恨ミテ徃々抵抗ヲナセシメアリシガ
遂ニ千八百六十年ニ於テ再々又戦争ノ妖氣ヲ
現シタリ蓋シ其戦ニ於テハ彼ノ人目ヲ驚スベ
キ避暑宮ト如キモ兵火ニ罹リ其保存セシ財寶
珠玉等モ奪掠サル、如トナリシガ夫レガツメ
大ニ支那ノ開化ヲ進捗ヲ促シタリ
英清天津ノ條約ニ於テハ改正ヲナスベキノ明
文ヲ記載シ則チ千八百六十九年ヲ以テ其改正

ノ期トシタリ依テ其期ニ於テ支那政府ハ鴉片
ノ輸入税ヲ増加シテ其消費ヲ減サセシメノ議
ヲ主張シ之ヲ同國駐在ノ英公使ニ詢タルニ同
公使モ之ニ同意セルアリ然ルニ英ノ本國政府
ハ此ニグラツドストン氏ノ如キ賢相アリナガ
ラ更ニ此發議ヲ肯容セズ鴉片ノ税額ヲ従前ノ
條ニ存セシメタリ
之レニ依テ支那ノ理事官タル恭親王以下頗ル
熱心ナルアリテ英公使ニ電封ノ書ヲ寄セ支那
ノ人民ガ斯ル毒物ヲ使用スルヨリ為ニ埋財

上之乏窮ヲ来タシ又徳義止ノ害ヲ醸スル形況
ニ至リ加フルニ夫レガ為メ年々消費者ノ費ス
處ノ金額ハ殆ト貳億萬弗ニ及ヒタルアレバ宜
ク是等ニ洞察スルアリテ支那人民ヲ救恤スル
ノ議ヲ肯容スル可アラレテ欲スルノヲ述
ベシリ今左ニ其書ノ一部ヲ抜録シテ貴社ニ示
スベシ

千八百六十九年七月總理衙門ヨリサシルベル
トアールコツツ氏ニ寄スルノ書ノ略

我輩平生閣下ニ面晤ノ次鴉片ノ商業ガ一般

ノ通商ニ弊害アルヲ演説セシテ實ニ數回十
リニ抑モ藥邦ト貴國トノ間ニ取結ベル條約
ノ眼目タル處ハ勉メテ兩國ノ間ニ不朽ノ和
親ヲ保スルニアルナリ然リト雖モ若シ今ニ
シテ貴國ガ我が民衆ノ結恨ヲ開散スルノ英
断ヲナサズンバ後令ヘ何レノ政術ヲ施スア
ルモ將來ノ葛藤ヲ防止スルニ由ナカルベシ
我輩想フニ斯ル鬱恨ヲ解キ又夫レヨリ生ス
ベキノ禍根ヲ断ントナラハ鴉片輸入ノ禁ヲ
立テ兩國ノ間ニシテ確守セシニ芽ナスト

試ニ觀シ支那商賈ハ好良通用ノ茶生糸ヲ貴
國ニ輸送シテ貴國ニ利スル處アリモ貴國ノ
商賈ハ及之ニテ鴉片ヲ我國ニ輸致シ我國民
ニ害ヲナスモノ勸カラズ斯ル所業ハ真ニ不
正不良ト云ツベシ是レ畢竟何人ノ認可セシ
ヤ其本ヲ推セハ貴國ノ政府ニアルベシ然レ
ニハ我が支那有司兼人民ガ去國ハ好テ我國
ヲ衰運ニ歸セシムルノ所業ヲナシ我國ニ對
シテ毫モ親睦^睦ノ意ナシト云ハルモ無根ノ妄

言ニアラズ然レトモ貴國ノ富盛ト慈仁トハ
萬國ノ稱述スル處ニシテ殊ニ又貴國ハ其國
ノ通商ノ利益ニ関スルノ害ヲハ努メテ之レ
ヲ防止スルニ注意セリト聞^聞ク然ラバ則チ
何故斯ク何人モ公認セシ處ノ弊害ヲ除クニ
孤疑スルコトアルヤ仮令ヒ貴國ガ僅少ノ歳入
ヲ減スルニ顧慮スルアリテ蠶粟ノ耕作ヲ禁
遏セザルモ其レガ夕メ支那人民ノ根ヲ結ビ
又萬國ノ非難ヲ受ルニ至ルハ永ク斯ク有害
ノ商業ヲ維持スル能ハザルベシ

我輩切ニ望ム所下ノ之ヲ政府ニ献議スルハ
リテ即反其他ニテ罌粟ニシテハニ穀物或ハ
雜類ヲ耕作スルノ令ヲイサズテ若シ兩國
ノ間ニ於テ罌粟ノ耕作ヲ禁セハ鴉片ノ商業
ハ跡ヲ収メ鴉片ノ消費ハ地ヲ掃フニ至ラズ
想フニ如此大害アルノモテ勦絶スルハ貴
國ノ大徳又締盟國ノ親睦ヲ鞏固ナラシムル
ノ一端ニシテ殊貴國ノ徳望ヲ世ニ輝スベ
ク斯リ美德ヲ後世ニ傳ルハ豈ニ愉快ノ一事
ナラズヤ夫レ此事ノ通商ノ利害ニ関スルヤ

此如一字ヲ却
字スルヲ忌ム

實ニ甚サナラス若シ閣下ガ今日ニ於テ兩國
協議ノ禁止策ヲ計畫スルアラザレハ仮令ヒ
我輩ガ予辛萬苦其尽スベキノヲヲ罄スアル
モ我國人ノ憤懣ヲ去リ不好ノ又誣ヲ全フズ
ル能ハザル哉シ是レ我輩ノ日夜苦慮ニテ寢
食ヲ安セザル所ナリ
以上心肝ヲ吐露シテ以テ開陳ス尚クハ閣下如
何ノ報答ヲ賜ヘ
夫レ如此詐變ト喚做スル其邦人ハ其人民ノ幸
禍ニ合フヤクナラズ内國ノ
粟ノ耕作ヲ開ク

シタスシテ寧口頭片ノ輸入 皆キ生スル如ク
八百方丹ノ畝入ヲ捨ルヲ片 或ハ之レカタ
メニハ其他ノモ 子モ犠牲ニスルヲ好ムルア
ルモ及之シテ平生耶蘇ノ真教ヲ奉スル英廷ニ
アル縉士ハ(彼令ヒ此一挙ニ付テハ支那派出
ノ公使ヨリ出セル報答書ニ於テ支那政府ノ請
願セル處ハ全ク眞実公當ナル者ノ確証ヲ握
テカシ支那ノ文化ヲ進歩スベキ斯ル請願ニ報
答ヲナスヲ拒メリ記者若シ兩國ノ此所爲ヲ比
較セハ自ラ眞是非曲直ヲ明瞭スルアルハシ

想フニ英國ガ他國ヲ衰滅ニ帰セシムルノ決意
ヲ以テ計策ヲ施セルヤ大約如此ニ而シテ其計
策ヲ施セルヤ帝ニ支那一國ニ止ラズ現ニ我々
國ヘモ全一ノ手段ヲ以テ卓絶ノ政事家ナル者
名ノ理事官ヲ派出シ舌頭ニテ往年我國ガ恰モ
支那人ノ如ク孱弱ニシテ抵抗ヲナス能ハザリ
シヤ英人ノ被ラシメタル損害ノ要求ヲ解脫セ
ントシタリ然レモナラス該理事官ハ萬一此事
ヲ成切シトバゴリキエリ此 爵位ニ昇ルベキ
前約ヲ以テ我國ニ出發セシト云フ去夫

魯帝が巴里に在りて破り遠く予を南歐東亞に
伸サントシテルキニ於テハ其國ノ至生慣予ノ
政略ハ寂トシテ爾ヘザルノ状アリ見ルベシ英
國ハ弱ヲ凌キ強ヲ抑ルノ政略タルヲ
我輩ハ斯リ是等ノ眞事ヲ推考シ来ルニヨリ記
者ニ問ベキモノアリ云ク斯レ壯年ノ一壯士ア
リ其日夜ノ進ス處ヲ見ルニ唯己シヨリ脆弱ニ
シテ体力氣勢ノ衰ヘテ更ニ抵抗ヲナス能ハザ
ル老者ヲ凌歴スルモ己レヨリ強壯ナルモノニ
遇ヘハ唯低頭屈腰ノ状ヲナセルアリ貴社ハ何

等ノ名ヲ以テ斯ル人ヲ品評スルヤ我輩自ラ我
評語アリ然レトモ敢テ斯レ之ヲ吐カス蓋シ貴
社ガ此品評ヲ下サレトナラバ一目下ニ断按シ
能フベキモノト思察スナリ
以上列述セシ如キ暴惡ノ政略ニ付キ貴國
ル繕士中公平ノ思慮ヲ抱ケルモノハ如何ノ觀
察ヲナセシ故ヲ証明スルガタメ我輩ハ左ニフ
オールトナイトレヒユ（毎武團新聞）ノ一文ヲ掲ク
ベシ
鴉片ノ戰ニ係リテノ「グラツドスト」氏ノ演

説云ク此等ノ事由直ヲ論スレハ其理全ク
那政府ノリトス彼令七同國ノ内政タルヤ暴
君專権ノ弊アリ官吏不正ノ害アリ又外國ノ
干涉ニ苦ムノ状絶ヘサルコトアルモ之ニ拘ラ
ズ今舉ノ如キハ其人民ヲ徳義ノ域ニ赴カシ
メ且其國ノ順序ヲ整理セントスルノ企ニ出
テタルナリ左レハ支那ノ所為、之レヨリ正
理ナルモノアラストスベシ然レニ退テ文明
ヲ以テ世界ニ誇レル我國ガ斯ル支那人ノ愛
國心ヨリ出ルノ努力ヲ待スルコト如何ヲ視レ

ハ殆ト痛歎カ外他ナシ其状タルヤ唯ニ之レ
ヲ秦越視レテ尚ハザルノミナラズ英國ノ政
事家ハ耳シテ世界三分一ノ人類ニ害ヲ被ラ
シムルノ舉ヲ仕遂ケ又其レヲ適當ノコトシ
テ口外スルアリ
彼令七我國ガ第一回ノ支那戦争ノ因ヲ起原
セシ責ヲ辨解スベキ理由アルニセヨ又我輩
ハ天津ノ條約ヲ履行レテ鴉片ノ商業ヲナセ
シニヨリ止ムヲ得ス此戦ヲ開キタルトノ辭
アルニセヨ或ハ印度ノ歳入ノ一時ノ缺乏ヲ

補ニカタメ亦久ノ徳義ヲ顧ミ及ニ假アリ
ザルヨリテ斯ル場合ニ至リシテテ微明ス
ルニセヨ何レニテモ我國ハ卑劣ノ面目ナ
キ地位ヲトリタルヲ適ル、處ニテ況レヤ斯
ク支那帝國ノ衰之ヲ醸成セル者般ノ原因ヲ
視ルハ悲ク我國人ノ醞釀スル處ニシテ加フ
ルニ斯ノ如キ不幸ノ結果ヲ生シタルノ政略
ハ今日ニ至ルモ尚才印度ノ支那人ト本國ノ
政略家トノ共ニ計畫スルノモノニ於テオヤ
左スレハ其界者ノ非奉タルハ姑リ措キ少ク

人ニ思ヒサルノ心アルモノニテハ由モナシ
ガリキナナリシ然ルヲ我國人ハ之等ニ思ヒ
ルヤリ唯ニ之レニ思フノミナラズ今時ニ英
國ノ貿易或ハ英國ノ文化ノ影響ハ及ベルヤ
ハ世界ニアル不幸ノ人民間ニモ等スベカラ
ザルホドノ公益ヲ被ラシムルニ至ルベキ昔
ヲ公言セリ吁其自ラ是トシテ非ヲ遂クルノ
ヲ真ニ甚シカラズヤ
我輩ハ現在ノ狀況ニ係ルモノヲ斯ク迄ニ論述
シタルヲ是レヨリ將來ノ狀況ニ論及セ

是しヨリ一字ヲ
缺字ニスル等
ナレバシテ誤テ
缺字ニスル等
ナレバシテ誤テ
了之

ト云ふに先ツ貴社ヲシテ印度ニ係リ貴國
ノ政略ガ如何ノ状孰ヲ古ニ乎ヲ明判セシメ
カクメ去月刊行ノコンテンポラリレビエ
止新聞雜名ヨリ左ノ一文ヲ録シテ示スベシ
鴉片ノ商業ニ関シテ印度政府ノ意想ト政略ノ
如何ハ何人モ一目瞭然スベキモノナリ蓋シ全
政府ハ鴉片ノ歳入ヲ維持シ且ツ之ヲ増殖セン
ガタメ荐ニ支那ノ鴉片ノ高没如何ヲ究察スル
ニ汲々トシ又理事官ヲ支那へ派出シテ其商業
ノ進歩ヲナスノ方法ヲ探ラシメタリ又此見込

ニ付キ北西地方へ鴉片ノ耕作ヲ擴開スベキノ
成否ヲ探偵セシムルノ議ヲ發セリ
且又支那ノ各開港場ニアル我領事ハ常ニ鴉片
ノ高没ヲ報告スルモノアリテ已ニ客年二月
刊行ノ外井ハ区新聞ニモ或ル探偵者ヲ派出シ
テ我鴉片ノ商業ニ付キ支那ノ争競ガ如何ナル
結果ヲ生スベキ歟ヲ查明セシムベシト一論
ヲ掲ケタリ加之ナラス印度政府ハ緬面ヲ通シ
テ鴉片ノ商路ヲ開テ隨テ直ニ支那ノ西部土ア
ル各府一之レヲ輸ハスルニ熱心セリ

是ノ実況ニ據リテ之レヲ觀レバ我國人が
年々八百萬兩ノ歳入ヲ欠ハサラシムニ注意
セラルハ如何ニモ遠謀アル姿ニ見ユレトモ我
國人が永ク斯ノ如キノ奸策ヲ逐ク飽マシム
那一廢カヲ加ルルキハ詰リ我國人ノ往年鴉
片ヲ戢ラ醞釀セシモノノ第二流者タルヲ免
レザルベキナリト

英國ハ右ニ述ブル如リ残酷ニ東方ノ水路ヨリ
到達スルマキ處ノ巨億ヲ人民ヲ腦シタルヨリ又
轉シテ西方陸路ヨリ到ルベキノ國ニ向テ全一

ノ政略ヲ向ケンヲ企テ且ツ之レヲ成就セシ
カタメ英政府ハ充分防禦ナシト認ムルノ國ニ
對シテ戦争ヲ試ムルニ怠ラザリシ現ニ客年十
月ノナリシガロルドダグービシ氏リバポール
ノ人ニ告ケテ曰ク斯類ノ衝突ハ事物ニ注意セ
ルノ人ヨリ見レバ其發スルヤ固ヨリ疑フベカ
ラザルヲニシテ已ニ今日ノ狀ニ至リタルハ
我輩ハ其衝突ヲ我國ノ利用ニ向ケ將來ノ地歩
ヲ占ムルノ方便トナスベキナリト想フニ人ヲ
啗ムノ勢カナキノ由ヲ認メテ之ヲ蹈ムハ一場

ノ遊戯タルベシ斯ノ所業ガ耶蘇奉教ノ英政府
ニ於テ特殊ノコトナリサリモハバウイングラ
ド、メリキス、エレトキ、プロストレー、英國條約ノ此如
何トト題セルヲオルトナイトレヒニ、論記
ニテ明判スルニ、今左ニ其一章ヲ抜録シテ
貴社ノ參觀ニ供フベシ

我英國ハ何レノ諸國ニ向テモ全一ノ計策ヲ
提リテ我國ノ物品ヲ三分或ハ五分ノ税ニテ
其諸國へ輸入スルノ利ヲ占得セリ而シテ即
今ハ東洋諸國ニ向テ此税則及ヒ物品管理ノ

方法ヲ使用セシコトヲ從事セリ斯ル目的ヲ達
スルニハ各種ノ手段アリト雖モ概シテ先ツ
論議ト腕力トノ二途ニ出テザルハナシ蓋シ
初メヤ論議ヲ以テスル方ガ簡便ナルユヘ之
ヲ試ムルアレトモ萬一論鋒ニテ事ヲ遂クル
能ハザルキハ直ニ次リニ砲響ヲ以テ通常狀
等ノ手段ニテ遲緩姑息ナル野蠻ヲ恐怖セシ
メ前ニ云ヘル税則等ノ箇條ヲ唯諾セシメ又
随テ斯ル軍費ヲ以テ徴収セリ
夫ハ今ニエスツリテ、モルコシ諸國ニ對シ

テハ鄭重ノ論議以テ之レヲ試ミシガ支那
ノ如キハ我輩ノ忠言ヲ納レズ我鴉片ノ功用
ヲ識ラザルガエハ腕力ニヨルベキニ至リ
タリ又日本トノ結盟ノ状ハ極テ特殊ノ類
ヲ示セルモノニテ其盟約ヲ遂ケシハ全ク日
本ガ外情ニ暗キユハ欺騙ト脅赫トニテ之ヲ
ナセリ若シ我輩ハ今他事ニ論及スベキヲ以
テ日本トノ結盟ノ談話ヲ看者ニ報道スル体
ハザルハ遺憾ナリ實ニ其條約ノ如キハ一種
特別ノモノニテ我國ノ外交事務ノ近年ノ得

策ヲ示シ併テ我國ノ現状如何ヲ示スニ至ル
モノナリシ

右ニ述ブル處ノ讀者ニ報道スベキニ足ルノ日
本ノ説話ハ取テ直サズ左ニ掲クルモノナリ今
ヲ距ル九十有餘年前日本ハ英佛其他歐羅巴諸
國ト條約ヲ結盟セシ方其條約タルヤ恰モ土耳
基或ハ東洋ノ諸各國ノ取結ベルモノノ如リ為
ニ辨明ヲ妨ケラレ為ニ國運ヲ衰ヘシムルモノ
多シ當時日本ハ條約締盟ノ門ニ熟セザルモ其
有司ハ巧ニ當日製スル條約ヲ八十年ノ後ニ於

テ改正スベキ音 條款ヲ掲ケタリ依テ其改正
ノ期已ニ到達セシユヘ我輩ハ必ス新條約ノ取
結ハル、トアルベシト信シタルニ宣計ニヤ英
國ハ其期ニ際スルモ雙方ノ熟議ナキニ決シ
テ改正ヲナスベカラズ又其熟議ヲ遂クルマデ
ハ従前結盟ノ條約ハ効力アルナトノ議ヲ主張
セルガユヘ未ダ改正ノトニ至ラザリシ想フニ
斯ル場合ニ於テノ日本政府ノ地位着々改正ヲ
ナサバレハ國運ヲ傾ケル如キ條約ニ曲從スベ
キカ或ハ百萬ノ巨艦ヲ東方ノ海面ニ備ヘ事ア

ルノ日ハ一舉ニシテ日本地方ノ間ニ取行ヘル
貿易等ヲ倒却スベキノ國ニ向テ兵馬ヲ試ムベ
キカノ二途ニアリ左レハ英國ノ事ヲ慮スルハ
却テ腕力ニアリテ道義ニアラザルハ辨ヲ待タ
ズシテ知ルベシ
以上ニ論述セシモノハ我輩ガ駁撃セントスル
ノ自由貿易ノ弊害ニテ今我輩ガ斯ク我國人ノ
ミサラス世界ノ人民ニ向テ消費者ト製出者ト
ノ關係ヲ親密ナラシムル處ノ保護法ヲ取用ユ
ベキ音ヲ忠告ス、モ畢竟此害ヲ除ンカクメナ

リヲ開ハス記者若シ足下ニシテ日本人タルア
レハ是レヲナサザルベキ歟又アタムスミエガ
米人ナレバ保護税家ノ害人タラザルベキ歟且
又「スミエ」ガ額利顛人タル上ハ英人ノ通商ニ
ナセルノ戦争ハ徒ニ市利ヲ壟断スルノ弊ニテ
ア「リ」シ「ク」又英人ハ大自在カ「ル」事サヘ得レバ癡
愚不公平ト喚ル「モ」更ニ忌憚セス其弗ノ為ニ
ハ耶蘇ノ真音モ或ハ文明ノ理義モ三舎ヲ讓ラ
シムルハ状アリシ「ク」テ同胞人ニ語ラザルベキ
歟又斯ク全氏ハ黙止シテ今日貴社ガ無学痴呆

ノ名ヲ以テ蔑視セル論理家ノ巨擘トシテ世上
ニ名ヲ轟サザルベキ歟全氏ノ此ニ出デザルハ
我輩ノ保スル所ナリ
其他印度ニ結果セシ事情ノ如キハ將ニ他篇ニ
於テ論述スルアラントス

ヘンリー・シー・ケリー

315

315

315